

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103169
法人名	有限会社 幸心
事業所名	グループホーム つばさ
所在地	松山市姫原3丁目3-7
自己評価作成日	平成28年8月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年9月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域の方と今まで以上に関わりグループホームを知ってほしくて始めた駄菓子屋ですが、今年は夏祭りで使える「かき氷無料券」を配布し、近隣の方が子供を連れての参加が多くありました。ホームに入っても楽しい生活が送れるようにお手伝いしていきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「行きたい所」や「したい事」ができるよう、希望を聞きながら外出支援している。プロ野球の巨人軍の大ファンの方には、坊っちゃんスタジアムの巨人戦を楽しめるよう支援した。テレビ観戦よりも何倍も応援し喜ばれたようだ。「姉の誕生日に花束をプレゼントしたい」という方には、買い物後、自宅まで届けに行き、一緒に楽しい時間を過ごせるよう支援した。駄菓子屋のお菓子を一緒に卸屋まで買い付けに行くこともある。気候の良い頃には、季節の花を見に出かけたり、動物園やいちご狩り、外食等にも出かけている。気分を変えて時々公園でランチすることもある。事業所裏の公園への近道として、敷地内の通路を開放しており、日常的にあいさつ等して交流している。公園に来る子供が立ち寄ってくれた時には、利用者が中心となって楽しめるよう見守っている。家族に協力してもらって、仲の良かった友人に遊びに来てもらうこともあり、見送り時、入居前の利用者の話を聞いたり、現在の様子を伝え、お付き合いが継続できるよう支援している。職員が同行して定期的にお墓参りできるよう支援しているケースがある。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム つばさ

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)

氏名 上田 八千代

評価完了日 28年 8月 15日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 随所に掲示し、振り返りながら実践できるようにしている (外部評価) 開設時につくった理念、「焦らず 怒らず 諦めず」をパンフ レットに明示し、居間に掲示して共有している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 公園の行きかえりの人に声かけたり、土日祝は駄菓子屋を 開き交流を持つている (外部評価) 地域の秋祭りをはじめ、町内会の活動に積極的に参加して いる。事業所の夏祭りやいも炊きには、地域の方や家族を招 待し、準備から協力がある。数年前から土・日・祝日に開い ている駄菓子屋は、利用者が店番をしており、子ども達と交 流している。小学校の社会科見学や児童クラブとの交流も定 期的に行っている。代表者は今後、「認知症カフェや介護相 談所として、地域の方のお役に立てるようなことも検討してい きたい」と話していた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) イベントの際に、近隣の方と交流を持ち、運営推進会議や家 族会での認知症を知ってもらえ報告発表や看取りの実践 発表などしている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家族会も同時に開催し、家族との意見交換をしたり、認知症への理解を深めている</p> <p>(外部評価)</p> <p>会議は、町内会長や民生委員、地域の方、家族、利用者等が参加しており、毎回テーマを決めて意見交換を行っている。年3回は家族会と併せて、花見や夏祭り、いも炊きの行事を行っている。消防署立ち会いの避難訓練も会議の参加者とともに実施しており、町内会長からのすすめがきっかけで、法人代表者は防災士の資格を習得している。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>イベントや運営推進会議に市役所・社協・包括に参加を呼びかけ、出来るだけ参加してもらい情報交換している</p> <p>(外部評価)</p> <p>地域包括支援センターの担当者が、毎回、運営推進会議に参加している。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>スタッフ全員が持ち回りで勉強会をしていて、夜間以外は施錠せず拘束のないケアをしている</p> <p>(外部評価)</p> <p>一人で公園まで散歩することが日課になっている方には、職員が「いってらっしゃい」と見送り、窓からそっと様子を見守りながら支援している。体動が激しくベッドからの転倒の危険があるため、家族の同意を得てベッド柵を付けていたケースがあるが、経過観察し、4ヶ月後に柵を外し、現在はベッド下に布団を敷いて対応している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) スタッフ持ち回りで調べ、勉強会で発表し話し合をしている 不適切と思われる言動があれば、その場で注意し合っている	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) スタッフ持ち回りで、勉強会をしている	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所契約時に社長が十分書面で説明し、疑問ある時は家族と話し合っている	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置している ケアプランに家族の要望欄をつくり、サインをもらう際や面会時に意見を必ず聞くようにしている (外部評価) 家族には、毎月ユニット毎の「つばさ新聞」と、毎週月曜日に更新するブログで、利用者の暮らしぶりを知らせている。緊急性のある要件や状態変化等については、電話で連絡して詳細に報告している。職員の入退職は、運営推進会議時に報告し、欠席者には議事録を送付している。各ユニットの入り口には、当日の出勤職員の顔写真と名前を掲示している。家族から苦情があった場合には、緊急ミーティングを行い、経過や今後の対応について検討し、次回の運営推進会議時に報告をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			月に一度ミーティングをしスタッフと経営者が話す場を取っている 給与面談をした時に個人的にも話す時間を取っている	
			(外部評価)	
			代表者は、各ユニットのリーダーを中心に職員の自由な発想やアイデアを採り入れて、日々の支援に取り組めるよう話している。長年勤務する職員もいるが、新しい職員の確保、定着や職員間の力量の差が課題になっている。	人材確保や育成は事業所の質にも関係することでもあり、課題解決に向けて、取り組みを具体的にすすめてほしい。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			キャリアパスシステムを導入している 資格手当あり	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			研修会の回覧をまわしてもらい、希望する研修があれば参加できるようにシフトを組んでもらえる	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			相互評価に参加したり、他施設へのイベントに参加するなどしている	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入所前に家族と話し合いアセスメントシートに基づいて、出来るだけ詳しく聞いている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時は出来るだけ面会に来て頂けるようお願いして、近況や相談・要望など聞いている	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入所前に面談し、詳しい情報を往診医・看護師に相談している	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 調理・掃除・洗濯物の片付け等、無理のない範囲で一緒に行うようにしている	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族を巻き込んで無理のないように本人を支えていけるように声かけし、なるべくイベントへの参加してもらうようにしている	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 行きつけの美容院に送迎したり、友人が訪ねて来やすい環境と家族から友人に訪ねてもらえるように声かけしてもらっている	
			(外部評価) 事業所裏の公園への近道として、敷地内の通路を開放しており、日常的にあいさつ等して交流している。公園に来る子供が立ち寄ってくれた時には、利用者が中心となって楽しめるよう見守っている。家族に協力してもらって、仲の良かった友人に遊びに来てもらうこともあり、見送り時、入居前の利用者の話を聞いたり、現在の様子を伝え、お付き合いが継続できるよう支援している。職員が同行し定期的にお墓参りできるよう支援しているケースがある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	
			個々の関係を見ながら、席替えしてスタッフが仲に入り上手くコミュニケーション取れるようにしている	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	
			退所後も希望があれば、新聞など送ったり、イベント参加の声かけもしている	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	
			毎月1回はスタッフ全員で集まり、利用者の情報を共有し、思いの把握に努めている	
			(外部評価)	
			今年、新たに「つばさアセスメントシート」を作成し、利用者の意向の把握に取り組んでおり、介護認定更新時に見直す予定である。センター方式の私の姿と気持ちシートを採り入れているが、追記や見直しは滞っている。今後さらに、利用者の思いや意向を探る取り組みに力を入れてほしい。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	
			出来るだけ今まで通りの生活が送れるように自宅へ訪問させて頂き、生活環境を見たり、何気なく言われた言葉を聞き逃さないようにしている	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	
			出来るだけ記録は詳しく書き必要に応じてチェック表を作っている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	ケアプラン作成時には担当スタッフが2ヶ月間利用者の様子を観察しケアプラン案を作成し、話し合っている	
			(外部評価)		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	共有したい情報は連絡ノートに記入しスタッフが把握している アセスメント表を作成し、状態が変わった時や変化なくても介護調査時に見直ししている	
			(外部評価)		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	本人の行きたい所は可能な限り行くように支援している	
			(外部評価)		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	地域のイベントに参加している 毎年、秋祭りではホームにお神輿や獅子舞を入れて楽しんでもらっている	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	
			希望があれば、かかりつけ医の受診支援も行っている	
			(外部評価)	
			月2回、協力医の往診がある。入居前からのかかりつけ医で診てもらっている方は、家族が受診に付き添って支援している。週2回、訪問看護師の訪問があり、利用者の健康管理を行ったり、職員の相談にのってくれている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	
			緊急時や体調に変化があれば連絡し、報告・相談している その他、細かな報告も専用ノートを作り共有している	
			(外部評価)	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価)	
			社長がこまめにお見舞いに行き情報を取っていて、早期退院に向けての話し合いをしている	
			(外部評価)	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			入所時に終末期の事を説明している 状態が変わった時はその都度家族と話し合っている	
			(外部評価)	
			入居時、家族に終末期の意向を聞いており、ほとんどの方が「最期までここで」と希望がある。この2年間で4名の方の看取りを支援しており、今年5月の運営推進会議時には、2Fのユニットリーダーが事業所の看取り支援について報告を行った。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			スタッフ全員が救急救命講習を受けるようにしている 緊急対応マニュアルをいつでも見れるように介護記録に入れている	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			年に1度は消防士に来て頂き避難訓練をしている 地域の自主防災会にも積極的に参加している	
			(外部評価)	
			事業所で何かあった場合には、町内放送を流し、協力してもらえる体制がある。伊方原子力災害時には、大洲市のグループホームを受け入れることになっており、視察に行き、持ち出し物や移動手段の確保について話し合った。地域の防災訓練時には、利用者と参加し、ダンボールの簡易ベッド作りや煙体験、炊き出し等を体験したり、見学したりした。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			話の内容によっては自室に行き話す等配慮している	
			(外部評価)	
			職員は丁寧な言葉かけを心がけているが、方言やくだけた話し方の方が反応が良い方もおり、関係性や時と場合によって言葉かけを替えて対応している。プランターの野菜の世話や掃除機かけ、繕い物、料理等、利用者個々が得意なことが行えるように、職員は見守りながら支援している。利用者によっては、洗濯物を取り込む時間や台風後には庭の掃除を気にかけてくれる利用者があり、職員は、お礼を言っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			声かけし表情や仕草等のみて出来るだけ本人が物事を決められるように支援している	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 非言語的な事からも本人の望んでいることを探り、なるべく本 人のペース・希望に合わせた支援をしている	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) 外出するときと普段着を分け、普段着でも本人の好みを聞い たり、家族に持ってきてもらったりしている	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 好きなメニューを聞いて作ったり、旬な食材を使って季節感 を味わえるようにしている 調理ができる利用者には手伝ってもらっている (外部評価) 事業所の畑やプランターで野菜を育てており、食卓にのぼる こともある。「本日の献立」は、食材のイラスト入りでホワイト ボードに掲示しており、見て確認する方もいる。関係性を配 慮して、テーブルの配置や席を決めている。職員は利用者 の間に座り同じものを食べており、介助等を行っている。食 後は、利用者数名で協力しながら皿洗いしたり、片付け、 テーブル拭きを行っていた。調理や味見、盛り付けを行う方も おり、珍しい旬の食材が手に入ると、職員は利用者に習いな がら一緒に調理をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人に合った食べやすい形態にしている	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 一人一人の状態に合わせた口腔ケアを行い見守りしている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンを把握して、それに合わせたトイレ誘導をしている	
			(外部評価) 日中はできる限りトイレで排泄できるよう支援している。個々の状態によって排泄用品の必要性や適切性を話し合い、随時見直すようにしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 10時のおやつにヨーグルト等、こまめに水分補給をしている	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日午後から入浴できるように準備している また夕食後に入る習慣がある人にも対応している	
			(外部評価) 基本的に一日おきに入浴できるように支援している。利用者ごとに湯を入れ替えて支援しており、自分で湯温を調節する方もいる。希望により、毎日入る方や就寝前に入浴する方にも対応している。入浴を拒む利用者には、気の合う職員が誘ったり、声かけやタイミングを工夫して支援している。利用者の中には、洗髪は、入居前の習慣から、いきつけの美容院で行う方があり、月に一回出かけてカットや洗髪をしてもらっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 天気の良い日には布団を干し、部屋を換気するなど気持ちよく寝られる環境を整えている 日中でもしんどそうな時は仮眠を取って休んでもらうようにしている	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) スタッフ個々が薬表を持っていて確認しながら確認している	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人に合った役割を持ってもらい、負担にならない程度でしてもらっている	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望にそって外出が出来るように支援している 他施設のイベント等あるときは、声かけて参加してもらっている	
			(外部評価) 「行きたい所」や「したい事」ができるよう希望を聞きながら外出支援している。プロ野球の巨人軍の大ファンの方には、坊っちゃんスタジアムの巨人戦を楽しめるよう支援した。テレビ観戦よりも何倍も応援し喜ばれたようだ。「姉の誕生日に花束をプレゼントしたい」という方には、買い物後、自宅まで届けに行き、一緒に楽しい時間を過ごせるよう支援した。駄菓子屋のお菓子を一緒に卸屋まで買い付けに行くこともある。気候の良い頃には、季節の花を見に出かけたり、動物園やいちご狩り、外食等にも出かけている。気分を変えて時々公園でランチすることもある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 施設で預かっているお金以外に、家族の許可を得て本人が持っているお金を買い物時に使えるように支援している	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族が負担にならない程度に、本人が電話をしたい時にできるようにしている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 畑には季節の野菜を植え、ホーム内にはスタッフ手作りの季節感ある掲示物を飾っている</p> <p>(外部評価) 今夏は、ひょうたんを育て、伸びたツルが窓辺のグリーンカーテンとして日よけになった。廊下の本棚には、利用者の普段の暮らしや行事の様子の写真をアルバムにして並べており、来訪した家族や利用者が見ている。1Fユニットでは、うさぎを飼っており、利用者の癒しになっている。壁面には、職員手作りの大きな日めくりカレンダーが掛けてあり、今日の日付を確認して居室に戻り日記を書く方がいる。居間では、お手玉やおはじき、けん玉、コマ回し、手作りカルタをしたり、職員が紙芝居を読むこともある。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>セカンドリビングや廊下に2人掛けのソファーなど設置している</p>	
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 本人が生活しやすいように、個々の個性に合ったレイアウトをして生活してもらっている</p> <p>(外部評価) 入居前に使用していたじゅうたんやソファーセット、三面鏡等を持ち込みしつらえている居室があった。アイロンや冷蔵庫を置いて使用する方もいる。家族が本人と相談して、家具を入れ替えたり、季節ごとにカーテンを替えたりするところもある。仏壇や神棚を持ち込み、お供えや水を交換し、手を合わせる方もいる。水墨画が趣味の方は作品を額装して飾っている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) トイレやお風呂の看板や張り紙で場所をわかりやすくしている 手すりを配置し歩きやすく支えられるようにしている</p>	